

133 渡嘉敷ペークー(リ)(競馬)

あれはね、昔の首里の侍で、馬グワー持つて、王様の馬と勝負させるいうて、稲の穂を尻尾にくびってから。このペークーの馬グワーは最低の馬であるが、王様の馬と勝負させるいうて、稲の穂を尻尾に結んで、馬の大好物ですからね。それで、この王様の馬は、ペークーの馬の尻尾に稲の穂を結んであるから、これを食べようというて、絶対先にはならなかったって。それで、渡嘉敷ペークーには負けたって。

字武富 長嶺陽元